

駅における浮遊微生物量と衛生環境に関する主観評価との相関

川崎たまみ 京谷隆 潮木知良 伊積康彦 早川敏雄

微生物の存在は、単に視覚的な衛生感を損ねるだけではなく、不快感や空気環境を左右する悪臭の原因となりうる事が報告されている。既報では、一年間にわたって駅構内の空中浮遊微生物量を調べ、空中浮遊真菌量は地下構内にて、空中浮遊細菌は改札付近にて多くなる傾向があること等、その検出パターンが空中浮遊真菌と空中浮遊細菌とは異なることを報告した。本報告では、駅構内の衛生環境に対する主観評価において、駅構内に浮遊している微生物量がどのように影響しているかを相関及び重回帰分析により調べた。

その結果、駅構内の「きれいさ」及び「におい」のいずれについても、空中浮遊真菌量のほうが、空中浮遊細菌量よりも主観評価に対して与える影響が大きく、また「きれいさ」よりも「におい」を評価するほうが、より適切に評価できることが分かった。

(鉄道総研報告, 2010年9月号)

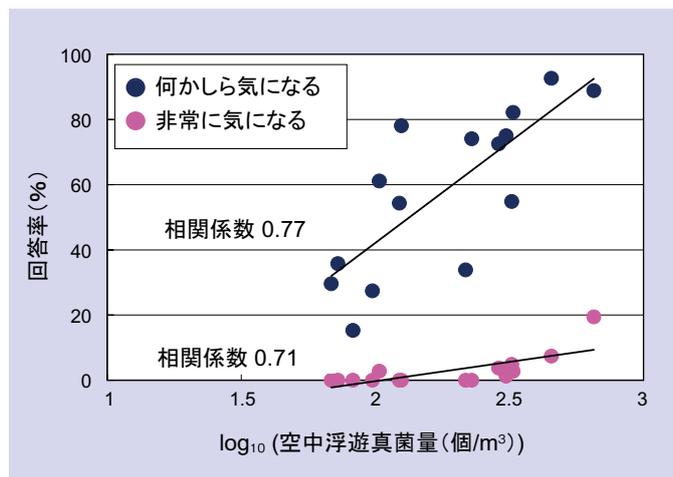


図 「におい」に対する回答率と空中浮遊真菌量の常用対数との相関